

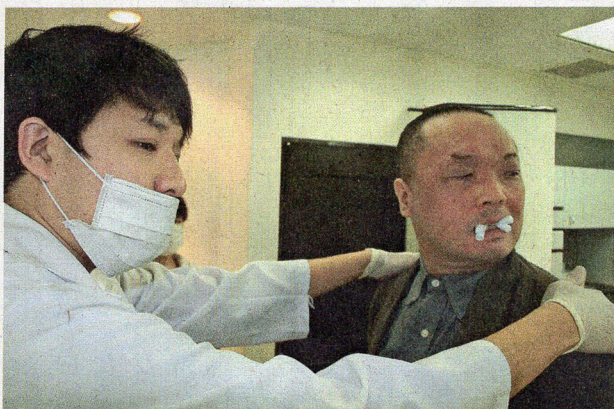
医療ルネサンス

No.6953



かみ合わせを治す

5/5



棒状のコットンをかみ、首の曲がり具合のチェックを受ける長谷川さん(右)と長坂俊幸さん(東京都港区)

かみ癖 聴力検査で判定

「右の奥歯が、少しかみすぎのようですが、全体的なバランスはいいですね」
21日、東京都港区の長坂歯科。神奈川県横須賀市の大学研究員、長谷川拓也さん(43)は、かみ合わせ治療に力を入れる副院長の長坂俊幸さんから、聴力検査の結果を説明された。治療の経過は良好だった。

顎関節は耳の穴のすぐ近くにあり、かみ合わせが悪いと聴力が低下することがある。かみ合わせのバランスを調べるのに、聴力検査を活用する歯科医院は少ないが、どの歯がかめていなかかなどを予測する上で役立つという。長坂さんは「患者の感覚に頼らず、客観的なデータに基づく治療ができる」と話す。

ただけだった。以前から、セミの大合唱のような高音の耳鳴りがしたり、腰や膝の痛みで歩くのがつらくなったりすることがあった。歯に痛みを感じていたこともあり、長坂歯科を訪ねた。聴力検査やレントゲンなどで顎や歯の状態を調べたところ、かみ合わせが悪く、奥歯でかみすぎていることが分かった。かぶせ物をして歯の高さを調整すると、痛みや不快感がなくなっていた。

「奥歯だけでかんでいる感覚はなくなり、ふらつきや首の張りもなくなった」と絵理さん。最近はおくしんぐの練習に行けるほど、体調が良い。
院長の長坂齊さんは「かみ癖があると、特定の歯に負担が偏り、かみ合わせも悪くなる。日本人は奥歯でかみすぎる人が多いと感じる。全ての歯を使ってかむように、日頃から意識してほしい」と話している。

長谷川さんが治療を受けるきっかけは、昨年暮れ、勤務中に突然、強烈な片頭痛に見舞われたことだ。すぐに脳神経外科に駆け込んだが、痛み止めを処方され

長谷川さんは「体が軽くなり、歩くのは3倍速くなった」と効果に驚く。
東京都港区の主婦、ウェーブ絵理さん(46)は、ドイツ人の夫(53)とアルプスの4000級に挑戦するほど行動的だった。ところが約5年前から、ふらつきが始まり、目がぼやけ、船に揺られているような感覚に悩まされるようになった。

脳神経外科や眼科、耳鼻科と次々に受診したが、原因は分からなかった。
2016年10月、長坂歯科を受診。右上の歯が1本抜け、かみ合わせが悪くなっていた。治療では、抜けた所に人工の歯を入れ、両隣の歯で支える「ブリッジ」を装着。奥歯でかみすぎていたため、食後にチューブを10回かみ、かみ癖を直すトレーニングを続ける。

(次は「情報革命」で、掲載は1月7日からの予定です)
(西原和紀)

くらし **家庭**